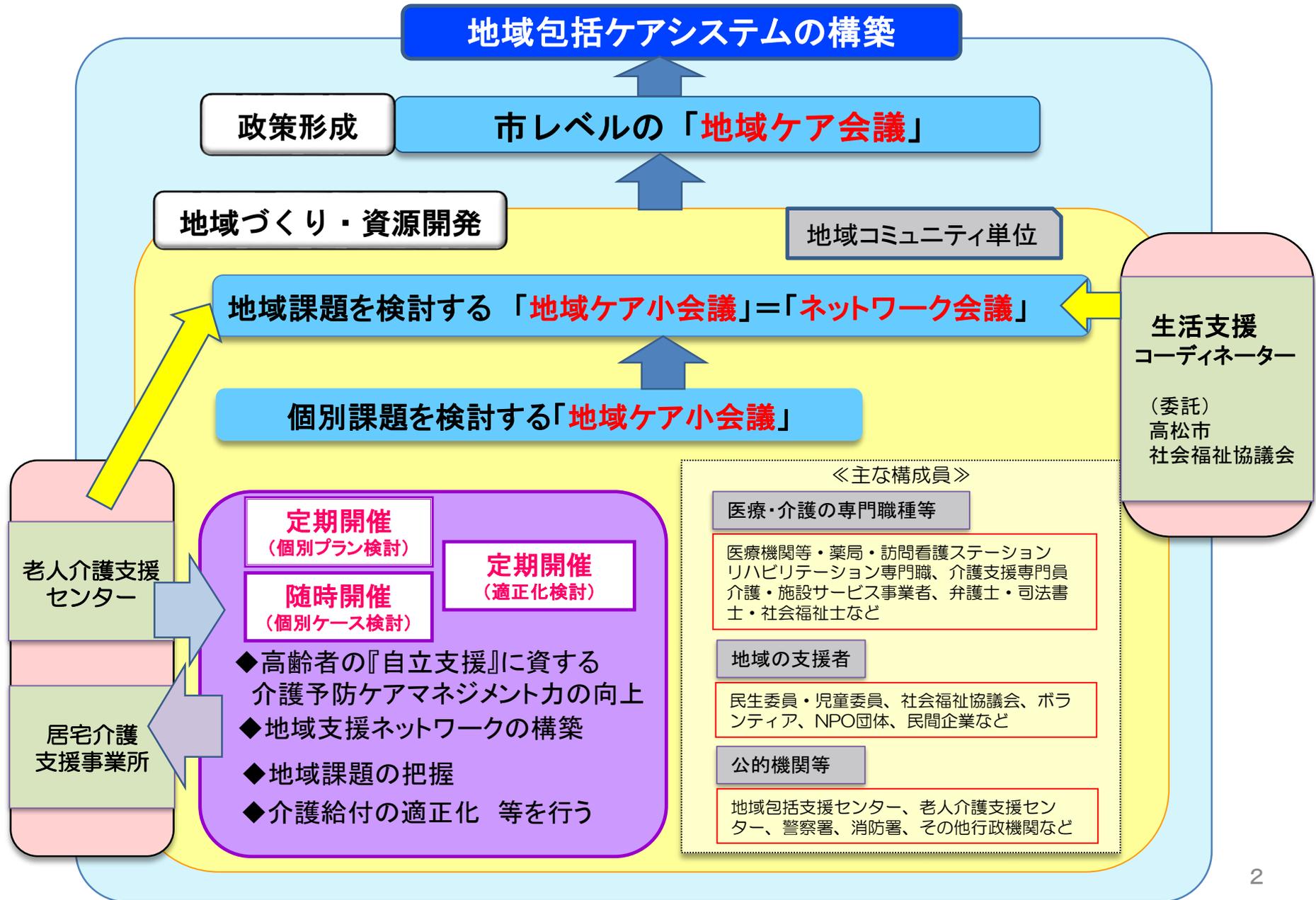


地域ケア小会議（個別課題）ケアプラン検討 の取組について

高松市地域包括支援センター

高松市における地域ケア会議と地域ケア小会議について



【新たな取組】

- 「地域ケア小会議」 個別課題のケアプラン検討
(平成29年3月開始)
プラン提供者：直営のみから委託先介護支援専門員にも拡大
平成30年度 32回開催予定
(平成31年1月末現在27回開催)
- 生活援助中心型の訪問介護が厚生労働大臣が定める回数以上となる場合のケアプラン検証のための地域ケア会議の開催
(平成30年度介護保険制度改正により平成30年12月開始)

【目 的】

多職種参加型のケアプラン検討を行うことで、介護支援専門員が、“自立支援”の意味を理解し、自立支援に資する視点を強化し、多様なサービスの効果的な利用に向けたケアマネジメントの資質向上を図る。

また、検討過程で把握した個々の課題から地域の課題として地域ケア会議などに意見としてあげることで政策形成へと導く。



地域ケア小会議 個別課題（ケアプラン検討）の開催状況

年 度	開催回数 (回)	検討件数 (件)	参加職種								
			保健師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	社会福祉士	薬剤師	理学療法士	作業療法士	管理栄養士	歯科衛生士
H28	1	4	●	●	●						
H29	13	41	●	●	●	●	●	●			
H30	27	81	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(平成30年度はH31.1月末現在)

地域ケア小会議 個別課題（ケアプラン検討）での専門職の役割

目指すものは・・・ 利用者の自立支援に向けたプランの実現



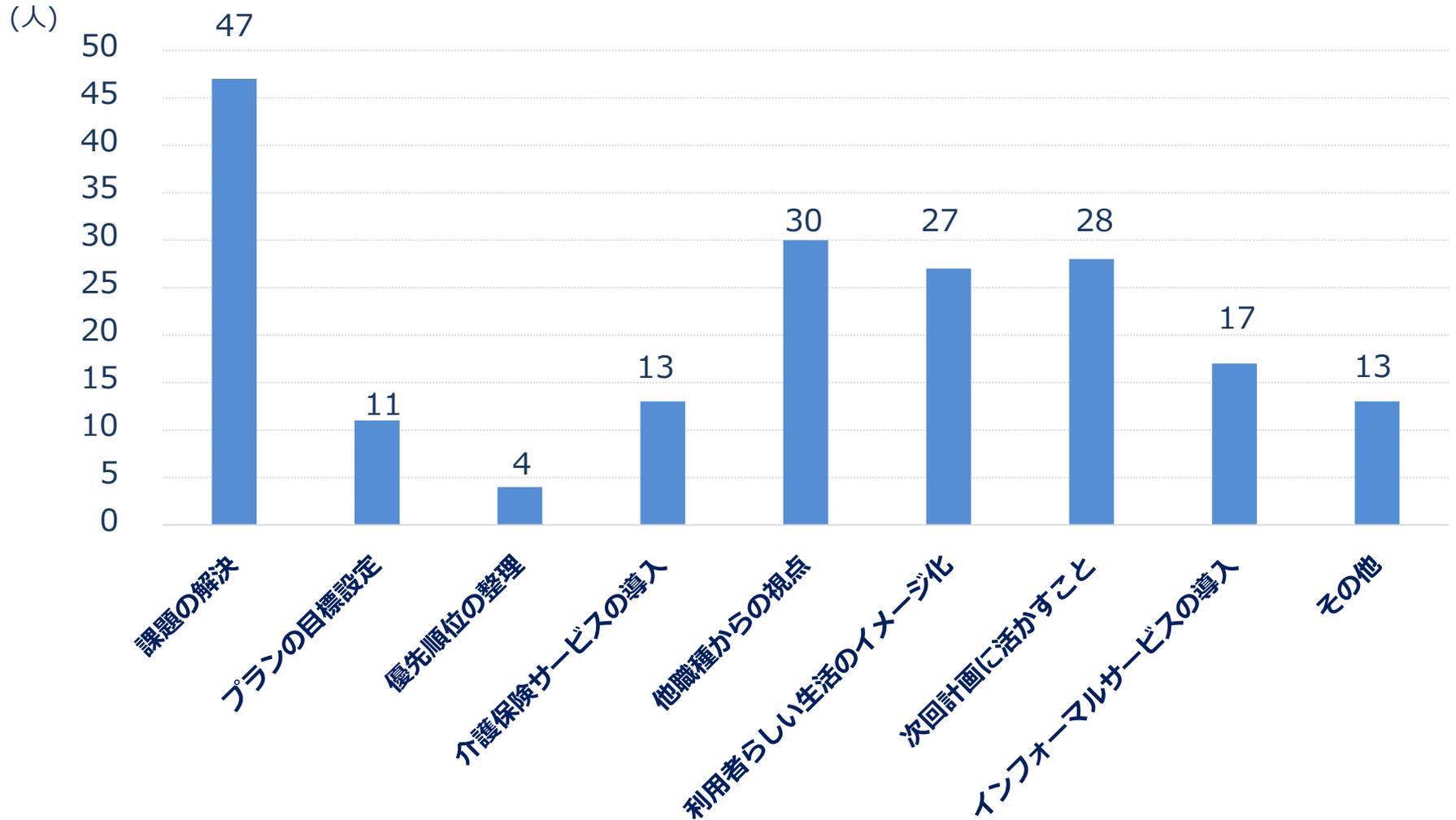
多職種による具体的な助言内容の例

職種	助言内容
理学療法士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動や歩行時の注意点、自宅での転倒リスク箇所の確認 ・ 散歩や買物等の外出時の動線の注意点 ・ リハビリ時の具体的な目標設定やプランの位置づけ ・ サービス事業所との目標の共有と連携方法 ・ 疾患の特殊性、筋力、生活環境等に応じた福祉用具の選択等 
作業療法士	
保健師	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康管理の確認、医療機関や関係機関の連携 ・ 多様なサービス、地域活動等のインフォーマルサービスの情報提供
薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処方の有無、薬の包装や服薬方法、服薬の理解状況の確認 ・ 副作用の有無や症状等に対する観察のポイント ・ 薬剤師や主治医への相談について
管理栄養士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低栄養の原因(咀嚼・嚥下、食事内容等)の分析と食事の硬さや調理方法の工夫等の改善ポイント ・ 麻痺や筋力低下のある人に対する屋内の動線や椅子の活用等による環境整備 ・ コンビニやスーパーのお惣菜に追加する食品等の活用による栄養バランスの改善方法
歯科衛生士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔ケア、清潔保持、義歯の手入れ ・ 嚥下に問題がある人に対する支援方法 (唾液腺マッサージ、口腔体操等)

プラン提供者の気づき

- ・ これまでは、ケアプラン評価時に状態の変化がなければ、プランの変更なしとしていたが、今回学んだアセスメントポイントを確認し、新しいケアプラン作成に生かしたい。
- ・ 多職種からの助言を受け、服薬状況や栄養、生活内容等のアセスメントの不十分な点が明確になった。利用者の望む生活の支援のために、より多面的なケアプラン作成の参考になった。
- ・ 目標を具体的に設定することで、より具体的な評価ができると学べた。
- ・ 自立支援に向けた“本人の主体的な意欲”を引き出すためには、本人の望む生活を支援するとともに、本人の役割を作り出すことが大切だと感じた。

地域ケア小会議 個別課題（ケアプラン検討）による 介護支援専門員の気づき・学び



平成30年7月～12月末開催分（25回、計75人）の結果

※重複回答あり

地域ケア小会議 個別会議(ケアプラン検討)の効果

【介護支援専門員・主任介護支援専門員】

- ①プラン提供者は、ケアプランを“利用者の自立支援”の視点で振り返る機会となっている。
- ②多職種からの助言により、アセスメントの視点が広がり、自立支援を支援するケアプラン作成のスキルが向上している。
- ③参加者は他の介護支援専門員の作成したケアプランの検討内容を共有することで、自身のアセスメントやサービス活用等に対する考え方の振り返りや気づきにつながっている。
- ④主任介護支援専門員は、介護支援専門員に対して行う指導・助言の視点が広がりつつある。

【多職種の参加者】

介護支援専門員や他の分野の専門職の介護予防の考えを知ること
で、多職種間の連携につながっている。

- “自立支援”の考え方を共有し、各委託先事業所内での“利用者の望む生活”の支援に向けたケアプランの作成やマネジメント力の向上に向けた効果を波及させるため、プラン提供者以外にも委託先介護支援事業所の主任介護支援専門員及び介護支援専門員の参加を促す。
- 今年度の地域ケア小会議(個別課題)プラン検討の結果が、「次のケアプランにどのように活かされたのか」を評価していく。

